

おしん

原作／橋田壽賀子

濱田ここね 上戸彩
岸本加世子 井頭愛海 小林綾子
満島真之介 乃木涼介 吉村実子 ガッツ石松
稲垣吾郎 泉ピン子

日本は、この涙で強くなった。
「生きる力」の物語。

おしん

原作／橋田壽賀子

濱田ここね 上戸彩
岸本加世子 井頭愛海 小林綾子 満島真之介 乃木涼介 吉村実子 ガッツ石松
稲垣吾郎 泉ピン子

監督：富樫 森 脚本：山田耕大
テーマ曲：「おしんメインテーマ」作曲／坂田晃一
主題歌：「Belief ～春を待つ君へ～」flumpool×Mayday (A-Sketch)

日本は、この涙で
強くなった。



企画：中沢敏明 火山典由喜 製作：遠谷信幸 岩原直雄 加藤武次 遠藤茂行 木下直哉 吳宏亮 古賀誠一 宮田一幸 町田智子 浅井敦 宇生雅明 加藤徹 谷穂彦 坂井史先 寒河江浩二 園部登 吉村和文 松浦隆一 岡正和 鈴木謙司
エグゼクティブプロデューサー：千野敏彦 田代秀樹 ターフプロデューサー：厨子健介 谷澤伸幸 岡田有正 プロデューサー：吉賀俊輔 鎌倉敏史 音楽：めい々Co. 撮影：鈴木一郎 (JSC) 照明：佐藤浩太 録音：若丸恒 美術監督：丸尾知行
美術：中川雅仁 装飾：藤田 衣裳：武内修 早船光則 ヘアメイク：中田マサ子 森崎慎子 床山：深町二空 石井崇子 スタジオ：西岡啓子 VFXスーパーバイザー：安田智也 編集：西尾光男 プロデューサー：橋本直樹 キャスティング：北田由利子
助監督：千村利光 制作担当：藤原大輔 「おしん」製作委員会：セディンインターナショナル 電通 TBS CBC 東映 木下グループ 藤江唐館現役 ネスターエンタテインメント MBS 朝日新聞社 TBSラジオ女性コミュニケーションズ 庄内映画村 シビスターシネマ
テレビユー山形 オプタ社 山形放送 ターブルテレビ山形 東北ケーブルテレビネットワーク 山形テレビ さくらんぼテレビ 撮影支援：山形県 映画「おしん」を応援する会 ロケ支援：山形市、鶴岡市、酒田市、朝日町、大江町、戸沢村、三川町、庄内町、遊佐町 撮影特別協力：montbell L&Lac 特別協力：LINE 制作：セディンインターナショナル 制作プロダクション：ザファーム 庄内映画村 配給：東映 ©2013 L&L&B&B&B NOT FOR SALE 監製 全国ロードショー www.oshin-movie.jp

10月12日 全国ロードショー





「母ちゃん、おれ、奉公さ行く。もう決めんだ。」



「ほだなことも知やねえで、役に立たねおぼこだっ！」



「ほいつはばんちゃんにもらったんだ！奉公さ出るとき、ばんちゃんがおれに……。うそでねえ！」



「奉公の辛抱も出来ねえよ。な情けないガキは、もう親でも子でもねえ!! とっとうと出てけ!!」

世代を超え、国境を越えて愛されてきた涙と感動の名作、遂に映画化。

1983年、NHK朝の連続テレビ小説として放送され、社会現象になった「おしん」。山形県の寒村に生まれ、口減らしのために奉公に行き、苦難を強いられても決して負けることなく生きるおしんの姿は、日本全国に旋風を巻き起こし、テレビドラマの歴代最高視聴率となる、平均視聴率52.6%、最高視聴率62.9%という驚異の数字を記録。さらに、これまで世界68の国と地域でも放送され、国境

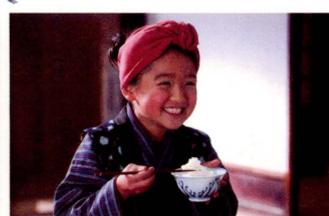
を越えて人々に愛されてきました。原作は橋田壽賀子。50年近くテレビドラマの第一線を走ってきた橋田の代表作となる「おしん」。生きる力、信念、親と子をテーマに、現代を生きる全世代に贈る映画が誕生します。おしんを演じるのは、オーディションで、約2500人の中から選ばれた、新人・濱田ここね。母・ふじに、上戸 彩。父・作造に、

稲垣吾郎。奉公先の加賀屋・くにに、泉ピン子。撮影は雪深く気温が常にマイナスとなる厳冬期に、山形県でのオールロケーションを敢行。「おしん」の少女時代に焦点を当て、美しく厳しい、大自然を舞台に数々の困難にぶつかりながらも、家族を想い、ひたむきに、愛らしくおしんが成長していく姿がスクリーンに映し出されます。この秋、全世界に涙と感動をお届けします。ご期待ください。

世界68の国と地域に広がったテレビドラマ「おしん」 2012年3月現在



放映された国と地域は、アジアにとどまらず、北米、南米、オーストラリア、インド、アフリカまですべての大陸にまたがる。



物語 明治40年、不作のため困窮を極めた谷村家では、7つのおしんが奉公に出される事となる。初めは家族と離れる事に抵抗したおしんだが、母のふじがおしんを手もとに残すために冷たい川に浸かり、お腹の子どもを墮胎しようとする姿を見て、おしんは奉公に出る覚悟を決めるのだった。

最初の奉公先の中川材木店では、早朝から夜遅くまで、働き詰めの毎日強いられた。女中頭・つねのきついしごきに耐えながら、おしんは我慢強く奉公を続けた。しかし店の財布から50銭銀貨がなくなり、盗みの疑いをかけられたとき、吹雪の中、黙って店を飛び出してしまう。山中で雪に埋もれていたおしんは、俊作という猟師に命を助けら

れる。山奥で松造爺と住む俊作に、読み書きや算術、ハーモニカなど、いろいろなことを教わり、満ち足りた時間を過ごした。やがて山に春が訪れて、俊作たちとの別れの日がやって来る。おしんは2番目の奉公先となる酒田の米問屋・加賀屋の門を叩いた。材木店で仕込まれた根性を発揮して健気に働くおしんは、大

奥様のくにから可愛がられた。加賀屋には跡取り娘の加代がいた。あるとき、加代の部屋にあった本がどうしても読みたくて、軽い気持ちで持ち出したおしんは「泥棒」と厳しく糾弾される。くにや加代との出会いから、いろいろなことを吸収して一段と成長したおしんだが、またもや居場所を失ってしまうのか……。



「これおしんにやるよ」「ほだな大事なもの……」「大事なもんだから、お前にやるんだ」



「どうが、おればここにいてくれる！」「一生懸命働ぐがら」



「これからはほんてん一人なんだぞ。誰も助けでくれねえ。一人で生きていかなね」



「母ちゃん、おれ、大丈夫だ。泣がねえでける！母ちゃんっ……！」